

「高くする者は低くされ」

ルカの福音書 14:1~11

はじめに

前回はガリラヤの領主ヘロデを「あの狐」と呼ばわり、目的地エルサレムに向かってさらに進んで行かれるイエシュアの姿が描かれていましたが、そこには黙示録 11 章に預言された「二人の証人」と彼らの働き、そして死と復活と昇天によってイスラエルの残りの者が起こされるという事実が指し示されている、奥義として秘められていると述べました。実は狐と呼ばれたヘロデ(הוֹרְדוֹס)という名をヘブル語で書くとそこにはヤーラド(יָרָד)という言葉が隠されており、その本来の意味はなんと「天から降る(創 11:5)」という意味です。そのうえでイエシュアは彼を「狐」シューアール(שׁוּעָל)と呼ばれたのです。この狐という言葉は本来、士師記 15:4 でサムソンがペリシテ人の畑を焼くために用いた尾と尾を一つに結んだ二匹一對の狐(ジャッカル)を指しており、これらのヘブル的事実から、狐と呼ばれたヘロデには、天から遣わされ「口から火が出て、敵を焼き尽くす(黙 11:5)」と記された終わりの日に現れる「二人の証人」の姿が指し示されていると述べました。彼らの存在は地上において決して歓迎されるものではなく、むしろ大いに憎まれ、忌み嫌われます。やがて彼らは底知れぬ所から上って来る獣(黙 11:7)によってエルサレムで殺されますが、都中がその死を喜び祝うとまで記されているほどにこの二人の証人は憎まれます。その事実を表す「型」とするためにあえてイエシュアは嫌味を込めてヘロデを指し、彼を「あの狐」と呼ばれたのです。しかし全人類から憎まれるこの「二人の証人」のその死と復活、そして昇天によってイスラエルの全部族から 12,000 人ずつ、総数 144,000 人の、額に神の印を押される(黙 7:4)イスラエルの残りの者が「恵みと嘆願の霊」を注がれ、イエシュアこそが真のメシアであることに目が開かれます(ゼカ 12:10)。神の印により彼らは獣と呼ばれる反キリストの脅威にも害を受けることなく、そればかりか数えきれないほどの多くの異邦人に御国の福音を宣べ伝え、救いへと導きます。そして史上最悪と言われるこの大患難時代を生き抜き、「祝福あれ、主の御名によって来られる方に(הַלְלוּ אֱלֹהֵי הַמָּלְכוּת הַבָּאָה בְּשֵׁם יְהוָה)」と宣言して、地上再臨されるイエシュアを聖都エルサレムに迎えることになるのです。このような終わりの日の神のご計画が指し示された箇所であることを前回は述べました。

それでは今日は 14 章に入ってまいります。先に言ってしまいますと今日の出来事、内容は前章の 13 章で指し示されたものの繰り返しとなっていて、これを違う表現や状況を用いて同じ事実を再度指し示しているという箇所となっています。つまりメッセージを準備する側としましては正直言って非常にありがたい？箇所となっています。しかし聖書が同じ意味を持つ記述を繰り返して記すということはそれだけ重要かつ必ず成就することが強調されているものであるということですから、これを聞く私たちもそのように受け止めていく必要があります。では今日もこれから後に起こることを教えてください。真理の御霊の助けがありますように。

1. 水腫

ルカの福音書【新改訳 2017】

14:1 ある安息日のこと、イエスは食事をするために、パリサイ派のある指導者の家に入られた。そのとき人々はじっとイエスを見つめていた。

14:2 見よ、イエスの前には、水腫をわずらっている人がいた。

14:3 イエスは、律法の専門家たちやパリサイ人たちに対して、「安息日に癒やすのは律法にかなっているでしょうか、いないでしょうか」と言われた。

14:4 彼らは黙っていた。それで、イエスはその人を抱いて癒やし、帰された。

14:5 それから、彼らに言われた。「自分の息子が牛が井戸に落ちたのに、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者が、あなたがたのうちにいるでしょうか。」

14:6 彼らはこれに答えることができなかった。

イエシュアが安息日に癒しを行われる、というこの件は前章の 13 章にも見られました。その時は十八年もの間腰が曲がったままの女性が癒されるというものでしたが、それが一切の労働が禁じられている安息日に行われたということに対する反発が起こりました。しかしそこでイエシュアはこう言われました

ルカの福音書【新改訳 2017】

13:15 しかし、主は彼に答えられた。「偽善者たち。あなたがたはそれぞれ、安息日に、自分の牛やろばを飼葉桶からほどき、連れて行って水を飲ませるではありませんか。」

これが今日の箇所では「自分の息子が牛が井戸に落ちたのに、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者が、あなたがたのうちにいるでしょうか。」という言い換え表現になっていることは明白です。そして「十八年間腰が曲がった女性」がここでは「水腫をわずらっている人」となっています。水腫とは一般的には動脈側毛細血管からの濾出と静脈側毛細血管の再吸収およびリンパ管からの排出の動的平衡が崩れることにより細胞間隙や体腔に余剰な水分が貯留する現象で、皮下組織に貯留したものを浮腫、体腔内に貯留したものを胸水、腹水、心嚢内にたまる心嚢水などと呼ばれるものですが（ウィキペディアより抜粋）重要なのは聖書がこれを何と言っているかです。聖書においてこれに関する記述は以下の一箇所のみです。

民数記【新改訳 2017】

5:12 「イスラエルの子らに告げよ。もし人の妻が道を外して夫の信頼を裏切り、

5:13 ほかの男が彼女と寝て交わり、そのことが夫の目から隠れていて、彼女が身を汚したことが見つからず、証人もなく、彼女が捕らえられないままであるが、

5:14 妻が身を汚していて、夫にねたみの心が起こり、妻に対して憤る場合、あるいは妻が身を汚していないのに、夫にねたみの心が起こり、妻に対して憤る場合、

5:17 祭司は聖なる水を土の器に取る。そして祭司は幕屋の床にある土のちりを取って、その水に入れる。

5:18 祭司は女を主の前に立たせ、その女の髪の毛を乱れさせて、その両方の手のひらに、覚えの分としての穀物のささげ物、すなわち、ねたみのためのささげ物を置く。一方、祭司の手には、のろいをもたらす苦みの水があるようにする。

5:27 その水を飲ませたとき、もし、その女が夫の信頼を裏切って身を汚していれば、のろいをもたらす水はその女の中に入って苦くなり、その腹はふくれて、そのももは痩せ衰える。その女はその民の間で、のろいの的となる。

これが聖書における「水腫」についての唯一の記述です。このように、聖書におけるそれは夫婦間における不道徳、不貞の罪すなわち姦淫を指し示すものです。聖書における「姦淫」それは夫である神である主と、その妻であるイスラエルの民との間にも適応され、イスラエルが異国の神々を礼拝することすなわち偶像礼拝を指し示します。ルカ 13 章の並行記事での十八年腰が曲がった女性もこの「十八」という数がモアブの王エグロンという人物を指し（士 3:14）、その名の意味がエーゲル「金の子牛」という偶像であり、これに腰を曲げる、つまりひれ伏す偶像礼拝を意味していたことをぜひ思い返してください。そしてこの時の女性と同様に「水腫をわずらっている」この人をもイエシュアは癒されました。それはつまり主がイスラエルを偶像礼拝の罪から解放し、その罪をお赦しになることを指しているのです。そしてさらにイエシュアはこの人を「帰された」ともあります。ここに使われているヘブル語はシャーラハ(חָלַח)と言い、その本来の意味は「いのちの木に手を伸ばす」という意味で（創 3:22）それはすなわち人が「永遠に生きる」ようになることを指し示す言葉です。神である主は、イエシュアによってイスラエルにこのような救いの御業を成し遂げられることがここには指し示されており、その成就こそが神のご計画の完成、完了である真の「安息日」であることをここに「型、たとえ」として表しておられるのです。これに対してパリサイ人たちは「答えることができなかった」とありますが、ヘブル語直訳では「返す言葉を知らなかった」となり、まさに彼らユダヤ人はこのような神のご計画を知らず、今日においても理解できないままなのです。それはなぜかということが次のたとえには示されています。

2. 上座と末席

ルカの福音書【新改訳 2017】

14:7 イエスは、客として招かれた人たちが上座を選んでいる様子に気がついて、彼らにたとえを話された。

14:8 「結婚の披露宴に招かれたときには、上座に座ってはいけません。あなたより身分の高い人が招かれているかもしれません。

14:9 あなたやその人を招いた人が来て、『この人に席を譲ってください』と言うこととなります。そのときあなたは恥をかいて、末席に着くこととなります。

14:10 招かれたなら、末席に行って座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『友よ、もっと上席にお進みください』と言うでしょう。そのとき、ともに座っている皆の前で、あなたは誉れを得ることとなります。

14:11 なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

このたとえはルカ 13 章での以下のたとえの言い換え表現です。

ルカの福音書【新改訳 2017】

13:28 あなたがたは、アブラハムやイサクやヤコブ、またすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分たちは外に放り出されているのを知って、そこで泣いて歯ざりしめるのです。

13:29 人々が東からも西からも、また南からも北からも来て、神の国で食卓に着きます。

13:30 いいですか、後にいる者が先になり、先にいる者が後になるのです。」

つまり「自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされる」とは「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」と同じ意味であり、これらは神のご計画におけるイスラエルと私たち教会を指し示しているのです。すなわち本来は高き者、先の者であるイスラエル、ユダヤ人が低き所すなわち地に、そして後に残されるということ、そして本来は低き者、後の者であるはずの私たち異邦人の教会が先に高き所すなわち天に引き上げられる、携挙されて救われるという事実がここにはたとえられているのです。イスラエルは終わりの日、地上における大患難の中で大いに「恥を」見て、悲しむこととなります。しかしその「末席に着く」ならば、やがて「あなたを招いた人（イエシュア）が来て『友よ、もっと上席にお進みください』と言うでしょう。そのとき、ともに座っている皆の前で、あなたは誉れを得ることになります。」すなわち主イエシュアが地上再臨され、イスラエルの残りの者を救い出され、彼らを神の選びの民としてその祝福の基とされるのです。まさにこう記されているとおりです。

創世記【新改訳 2017】

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

かつて私はこの「自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされる」とは、人に謙遜を教えるためのものとして受け取っていました。実際今日でも多くの教会ではこれを用いてそのように教えています。しかし私がどれだけ謙遜な考えを持ち、どれだけ遜（へりくだ）った生き方をしても、それが私を救う力とはなりません。ただ主が、イエシュアこそが今日も表し、宣べ伝えた神のご計画の成就をもってのみ私は、あなたは、そしてイスラエルは救われるのです。他に方法はありません。ですからあなたの謙遜は決してあなたを救えません。そればかりではなく、あなたのどんな知恵も力も行いもあなたを救えません。ただ主イエシュアだけがそれを成し遂げることがおできになり、そしてそれはこの地上における「神の国」という形で、イスラエルという民族、国家を世界の中心に据えることで成就されるのです。しかし私たちはまず先の者として「高くされます」。ここに使われているルーム(רומ)の初出箇所を見てみましょう。

創世記【新改訳 2017】

7:17 大洪水は四十日間、地の上にあった。水かさが増して箱舟を押し上げたので、それは地から浮き上がった。

これはノアの箱舟の一場面です。このように、ルームとは本来「地から浮き上がった」とあるように地上で高くされることではなく、地から上げられる、地から離れることを指す言葉なのです。これはまさに以下の預言を指し示しています。

I テサロニケ人への手紙【新改訳 2017】

4:16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラツパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、

4:17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。

私たち教会はこの神のご計画の対象とされていることを今日もしっかりと噛みしめ、思いをめぐらしてみましよう。そして一方、「低くされ」るという、ここに使われているシャーファール(לִפְּשָׁ)についても見ておきましょう。

レビ記【新改訳 2017】

13:20 祭司が調べて、もしそれが皮膚よりも深いところに見え、そこの毛が白く変わっているなら、祭司は彼を汚れていると宣言する。それはそのできものに生じた、ツアラアトに冒された患部である。

このようにシャーファールとは本来、汚れを指し、神にしか癒すことのできない病「ツアラアト」を指し示す言葉なのです。これに冒された者は民の中から追い出され、また隔離されます。イスラエルの残りの者はまさにこのようにされます。終わりの日、彼らはエルサレムから追い出され、羊のおりとも呼ばれるボツラの地に集められます。しかしそこに主イエシュアが地上再臨され、彼らの罪を赦し、これを救われるのです。携拳された私たち教会もこの時イエシュアとともに地上に戻り、イスラエルを率いてエルサレムに凱旋されるイエシュアを見ることとなります。まさにこう記されているとおりです。

マタイの福音書【新改訳 2017】

21:9 群衆は、イエスの前を行く者たちも後に続く者たちも、こう言って叫んだ。「ホサナ、ダビデの子に。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。ホサナ、いと高き所に。」

「前を行く者たちも後に続く者たちも」すなわち先の者、高くされた者も、そして後の者、低くされた者も、すなわち教会もイスラエルもともに

「祝福あれ、主の御名によって来られる方に (בְּרוּךְ הוּא הֵבְרֵא בְּשֵׁם יְהוָה)」このように叫んで主イエシュアのエルサレム凱旋の時をともに見ることとなります。これが神のご計画の完成「神の国」の成就です。この日が来ることを信じ、期待し、求めて今日も祈りましょう。「御国がこの地に來ますように」と。